研究課題 (テーマ)	富山県における後期高齢者の BMI とフレイルおよび生活習慣病関連の 有所見データの関連		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科地域看護学講座	講師	大西竜太
	看護学科地域看護学講座	教授	越田美穂子
	看護学科地域看護学講座	講師	中堀伸枝
研究結果の概要			
<p>1. 背景と目的</p> <p>本研究は、富山県の後期高齢者を対象に、BMI とフレイルの関連を明らかにしました。高齢化率が高い当地域において、健康寿命の延伸は重要な課題です。本研究の目標は、BMI を用いたフレイルの予測可能性を探ることにあります。</p> <p>2. 方法</p> <p>研究デザインは横断研究で、分析には富山県における後期高齢者健診の受診者のデータを使用しました。対象者は 75 歳以上の後期高齢者で、BMI データが正確に記録されている者を選定しました。フレイルの評価には、後期高齢者質問票を用い、身体、栄養、口腔、認知、社会の 5 つの側面を考慮しました。</p> <p>分析方法としては、まず全参加者の BMI の得点分布を調査し、その後 BMI を 1 単位ごとのカテゴリに分けて、フレイルの該当者の割合を算出しました。このプロセスを通じて、BMI とフレイルの関連性を視覚的に確認しました。さらに、多重ロジスティック回帰分析を用いて、BMI とフレイルの関連を詳細に分析しました。</p> <p>3. 結果と考察</p> <p>BMI とフレイルの間には U 字型の関係が認められ、過度に低い BMI および高い BMI の両極端な値がフレイルのリスクを高めることが示唆されました。この結果は、フレイル予防策として BMI の管理の重要性を示唆しており、特に極端な値を示す対象への介入の必要性を強調しています。本研究にはいくつかの限界があります。横断研究であるため因果関係の推定には制限があり、また、BMI を 1 単位ごとのカテゴリに分けたことによる情報の粗化が分析の精度に影響を及ぼしている可能性があります。さらに、後期高齢者健診受診者に限定されたデータであるため、選択バイアスの影響を排除することはできません。</p>			
今後の展開			
<p>今後の研究では、これらの限界を克服し、より精密な分析を行い、BMI とフレイルの関連を明らかにすることが望めます。また、他の生活習慣病関連指標との関連性についても検討することで、フレイル予防に対する包括的なアプローチが可能となるでしょう。</p> <p>今後は、後期高齢者健診における後期高齢者質問票のデータが KDB データに蓄積されれば縦断的な BMI とフレイルの発生について検証することができるため、BMI のフレイルに対する予測力を検証することが期待されます。また、後期高齢者における生活習慣病関連の指標 (HbA1c など) の他の指標について BMI との関係を検討することも重要です。</p>			